

㈱シー・ティー・ワイ 令和3年度 放送番組審議会

今回は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、書面開催にて実施。事務局が用意した番組を各委員に視聴していただき、回答書の返信をもって番組審議を実施した。

実施日・・・令和4年(2022年) 3月

参加委員・・・伊藤八峯委員長・三輪秀孝副委員長・石井智光氏・松井真理子氏・森亜希子氏

1. 番組審議①

特別番組「御在所の白鉄塔」 (25分)

放送媒体：地上テレビ12ch / CTY コネクトアプリ配信

令和4年(2022年) 1月放送

菰野町のシンボルでもある御在所の「白鉄塔」。

遠くならでも見えるようにと「緑」から「白」に塗り替えてから十数年が経ち、

2021年に一部が塗りなおされました。「白」を保ち続ける工夫や努力を伝えます。普段は関係者しか立ち入れない場所から撮影することもできました。

■ よく知っているロープウェイ（日本一高い）。なかなかいいプログラムだと思います。もっと宣伝して湯の山温泉に人が来るといいと思います。

■ 湯の山温泉にはコロナ禍以前は年に1度は訪れ、小学校の同級会を一泊二日で行っておりました。初日は夕方集合で懇親会、翌日はロープウェイを利用して御在所岳に登り自然を満喫して楽しんでいました。しかしここ3年コロナの影響で止む無く中止です。今回の「御在所の白鉄塔」の番組を拝見して、何気なく乗っていたロープウェイの建設に大変なご苦労があることがわかり驚きました。急斜面と岩場で足元の悪い場所に61メートル20階建に相当する高い鉄塔を建設する事は並大抵ではない苦労をされた事と思います。鋼材の搬入や組み立ては手作業で行われ、現在では考えられない工事現場だったと感心します。鋼材も人力で運び、組み立ても下部から根気よく作業が続けられた事と想像されます。鉄塔の塗り替えも白ではなく少し黒を配合された塗料を使用されているようですが見た目は真っ白に見えます。また定期的に塗り替えが行われていたようですが、これまた高所で常に危険が伴う作業で感心です。

■現在の場所に同じような鉄塔の建設は不可能だとの説明がありましたが、建設当時とは技術も作業環境も進化している中、建設不可能の理由の説明があると良かったです。

■完成から63年が経過した現在、まだまだ健在に稼働しこれから何十年先まで運行されるには、常にメンテナンスが必要だと思いました。次回ロープウェイを利用する時はこの番組を思い出しながら乗車します。

■三重県北勢部の象徴である御在所岳ロープウェイ。その歴史を知る良い機会となりました。四日市市内からでも条件によって確認出来る6号鉄塔。先人の方の技術と努力の賜物であると再確認出来ました。取材における苦労も感じる事が出来、良い内容だと思います。

■小学校低学年であったと記憶しておりますが四日市の歴史を学ぶ事があったと思います。是非今回の取材内容を市内の小学校へ提供頂き、子供たちが学べる教材となる事を望みます。

■取材上出来なかったのかも解りませんがドローン等を利用した映像もあれば高さ等が伝わったのかもかもしれません。

■これまでロープウェイで通るたびに、こんな岩場にどうやって高い鉄塔を作ったのかずっと知りたいて思っていたので、大変興味深く見ました。特に鉄塔の下まで行かれ、当時の飯場の跡の映像まで取材されていて、建設当時の大変さをリアリティをもって感じる事ができました。

■森専務さんの「昭和の人は偉人」という言葉をはじめ、関係者の方々の貴重な言葉をうまくつないで制作されており、とても胸を打たれました。あの場所で色を塗ることの難しさや、白という色の奥深さについて、それを担われている会社の方の言葉によって、よく理解することができました。

■森専務さんの「今だったら逆にできない」という言葉も印象に残りました。それがなぜなのか、考える教材にもなりそうです。

■番組全体がNHKの「プロジェクトX」を彷彿させるものだったので、この番組を契機に、地域版プロジェクトXのシリーズがあってもいいと思いました。

■この番組を、御在所ロープウェイのどこかで、常設的に見られるようにできないでしょうか。せっかくの貴重な映像ですので、多くの訪れる人に見てほしいと思います。

■事前に送られた説明に「白」のことが強調されていたので、最初に「彩 JAPAN」というタイトルが出た時、色を切り口にしたシリーズの一つかな、と思いました。最後に日本ケーブルテレビ連盟の名前が出てきたので、全国をつないで作られたものでしょうか。実際に放送された時は説明があったのかもしれませんが、「彩 JAPAN」という番組タイトルと内容との関係の説明がどこかにあるといいと思いました。

■「白鉄塔」の存在や御在所ロープウェイの歴史を知ることができる、良い番組だと思います。

■いつも見るたびに「どうやってつくったのか」と思っていたので、建設の様子や苦勞を知ることができました。番組の構成も素晴らしく、飽きることなく最後まで引き込まれました。意表を突く始まり方も斬新で良いと思いました。映像もとてもきれいで、御在所観光をアピールするツールとしても活用できるのではないのでしょうか？

2. 番組審議②

特別番組「阿倉川の伊勢大神楽」(30分)

放送媒体：地上テレビ12ch / CTY コネクトアプリ配信

令和4年(2022年) 2月放送

国の重要無形民俗文化財でもある「伊勢大神楽」。桑名市太夫の発祥と知られていますが、実は江戸時代には四日市市海蔵地区も「伊勢大神楽」の発祥地とされていました。番組では、現在も残る資料を元に探ります。

■伊勢大神楽が桑名発祥の重要文化財とは知りませんでした。東阿倉川は私の中学の学校区でしたが全く知りませんでした。どんどん放送してください。

■「伊勢大神楽」という言葉は聞いたことはありましたが、内容的にはほとんど知らず今回の番組を視聴し勉強をさせてもらいました。二百数十年前から続き、修行を重ね各地方を訪れ、笛太鼓と獅子舞でお祓いをされ歴史の深さに感銘しました。

■生活の様子や環境が変化している今日、伝統のある民俗文化財を継承していくことは大変なご苦勞かと推察いたします。この番組制作にあたり、資料の収集が大変だったと思います。勉強になりました。

■近くに住みながら全く知らない事でした。残念ながら後継者が少ない事で継承が危ぶまれておりますが、この放送で地域や市民が感心を寄せ、継承へ向けたバックアップが出来ればと思います。

■「伊勢大神楽」だけでなく市内には知られていない伝統が多々あると思います。どんどん掘り起こし盛り上げるきっかけとなる事を切に望みます。

■伊勢大神楽を初めて見ました。獅子神楽と放下芸との組み合わせが特色であることなど、全く知らなかったことを勉強させていただきました。また、伊勢大神楽がどのように県外にでかけていたのか、一端を知ることができました。

■さまざまな資料により、実際に行われてきた軌跡を明らかにされており、よく調べられていると感心しました。

■時代が変化し、四日市では継承する方がいなくなって、地域でも知る人が少なくなっていると語られていましたが、最後の方で、山本勘太夫さんが阿倉川の神楽の特色を継承されようとしていることや、「いつか四日市と縁があったら」と話されていたことが大変印象に残りました。

■冒頭に紹介されていた伊勢大神楽は、漫才のような掛け合いがとても面白かったです。知らない人が多いのはもったいないので、ぜひこの番組を多くの人に見ていただく機会を作ってほしいと思います。

■番組の中に「阿倉川代神楽」という言葉と「伊勢大神楽」という言葉が出てきます。番組で紹介されている「海蔵小誌」でも「山伏と代神楽」という章になっていました。「代神楽」という書き方は阿倉川だけなのか、少し気になりました。

■伊勢神楽などは聞いたことがありましたが、阿倉川にもこのような伝統があることを知らなかったのが、非常に興味深く拝見致しました。

■インタビューやロケの映像はよくわかりましたが、ナレーションが単調で内容が頭に入ってきませんでした。企画内容は NHK のような格調の高いものだったので、ナレーションが残念でした。どちらの作品も視点や内容はとても良かったと思います。

3. 番組制作全般に対するご意見、ご提案

■今年の冬は例年なく多い降雪で、道路情報や鉄道情報が助かりました。特に定点カメラで映し出される積雪の生の情報は、田舎に住む車生活の者にとっては、とても助かりました。とくにいなべ市藤原は積雪が多いので。

■コロナ禍でロケ取材は大変だったと思います。国・県の警報が解除されても感染拡大は一向に止みません。アフターコロナを見据え、生活様式の変化が進む中、日々の生活に密着した情報を番組でとりあげていただくとありがたいです。

■市内に住んではいますが知らない伝統文化等がまだまだ多々あると思います。取材し放送する事が始まりであり、今後どの様に携わっていくかも重要だと思います。若者のテレビ離れが今後も続いていくと思います。テレビにどの様に興味を持たせるか、テレビ以外の発信をどの様に行うのか、難しいとは思いますが検討頂ければと思います。

■地方都市の魅力を伝えるツールとして、重要な役割を担っていると思います。これからも街をより理解することができる素晴らしい作品を制作していただければと期待しております。

■年始の首長の挨拶も、それぞれの市区町村の考え方や方向性がわかる有益な番組だと思い、楽しみにしております。

■地域ならではの新型コロナのドキュメンタリーなども放送してほしいです。例えば、新聞にも取り上げられていた四日市市保健所の方々や、医療従事者の方をピックアップして頂くと、感謝の気持ちや感染対策への協力が必要なことを、より身近に実感できるのではと思います。

以上